

ミスジキイロテントウ神戸市からの記録

山本 勝也

ミスジキイロテントウ *Brumoides ohtai* Miyatake は台湾産の個体に基づき記載された¹⁾(宮武1970)。本邦では1985年、沖縄県沖縄市で大発生し、本州では翌年の1986年に大阪市大正区から報告された³⁾。

分布は本州、沖縄³⁾、九州、石垣島(初宿私信)、海外では台湾³⁾とあり、記録のある地は沖縄市³⁾、大阪府内の多地域³⁾⁴⁾、広島県、島根県、長崎市²⁾、奈良³⁾となっている。また、関東方面でも神奈川県茅ヶ崎市の千ノ川(調査年不明)や東京都旧江戸川(1999年)での調査報告もあるようである。

国内での初見記録が新しい事や海外での分布、また外国船の往来のある地での記録が多い事により移入種であるとの指摘があるが、本来の生息地はわかっていない²⁾。

今回、筆者は神戸市内において本種を採集する機会を得た。各文献記録を調べたが兵庫県内での記録が見当たらないのでここに報告する。

1ex., 神戸市須磨区高倉台, 9. IX. 2004 山本勝也
採集、同定、保管。

乗車中の車のフロントガラスに止まっていたものを偶然に目撃、採集した。

本種の生息環境の条件として、平野で都市部³⁾であることや外国船舶の往来のある点²⁾が上げられている。今回の採集地が含まれる兵庫県南部においても前記の条件に一致し、また隣接する大阪府での多くの記録があることから、今回の採集個体にとどまらず本種が生息する可能性が多分にある。

本種の生態としての報告は、芝生の上で見られ、すばやく歩きながら芝生の中にもぐりこむこと³⁾また、1個体がヨモギ類のピーティングによって得られた²⁾という記述がある。

この文を書くに当たり最新の情報、記載の記録をご教示いただいた大阪市立自然史博物館初宿成彦氏、文献のご教示をいただいた稲畑憲昭氏に深くお礼申し上げます。

<参考文献>

- 1) 宮武睦夫, 1970. 愛媛大学農学部紀要(14巻3号)
- 2) 山元宣征・佐々治寛之, 2004. 月刊むし(406): 11-12.
- 3) 初宿成彦, 1999. 大阪のテントウムシ: 6.
- 4) 初宿成彦, 2000. Insecta Miyatakeana: 126.
- 5) 高橋寿郎, 1999. きべりはむし(第27巻 第2号): 24-31.
- 6) 高橋寿郎, 2000. きべりはむし(第28巻 第1号): 12-31.

ナラガシワのドングリに産卵する寄生蜂

久保 弘幸

写真の蜂は、筆者が2005年10月23日に、加古川市上荘町白沢で撮影したものである。珍しい状況と考えて撮影し、その後、蜂と写真のドングリを採集した。

ドングリの表面のうち、蜂が産卵管を刺し込んでいた付近を詳細に観察したところ、シギゾウムシ類の産卵孔と思われる微小な孔が見つかったことから、写真の蜂は、シギゾウムシ類の幼虫に寄生する可能性が高いと判断された。

その後、当該のドングリからは2頭のゾウムシ幼虫が脱出した。筆者は、これをプラスチック容器に土を入れたもので1年半にわたって飼育したが、成虫の羽化を見なかったため、ゾウムシの同定はできなかった。

シギゾウムシの幼虫は土中で蛹化する。従って、この寄生蜂の幼虫は、ドングリの内部で成熟し、蛹化しなけ



寄生蜂(種名不明)の産卵 加古川市白沢

ればならないと思われた。そこでシギゾウムシ幼虫が脱出した後、ドングリを切断して内部を確認したが、残念ながら寄生蜂の幼虫・蛹等は見られなかった。

産卵が不備に終わっていたためか、寄生蜂の生活史が筆者の想定と異なっているためかは不明であるが、いずれにしても得がたい機会であった。

兵庫県ハチ北高原でのフジキオビの記録

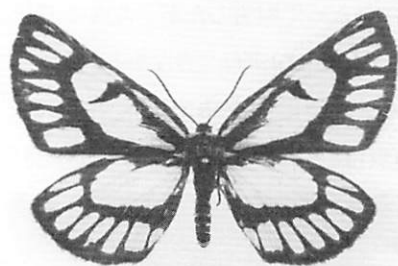
岡本 俊治

筆者は兵庫県香美町のハチ北高原でフジキオビを採集しているので報告しておく。

1♀, 兵庫県美方郡香美町村岡区ハチ北高原,
9.VI.2005, 筆者採集

当日の天候は晴れ。昼食後、「たたらキャンプ場」から「昇竜の滝」に通じる登山道の入り口付近を歩いていると、樹林帯の中ではあるが比較的開けた明るい空間をひらひら飛ぶ本種を発見。蝶では思い浮かぶ色彩では無かったのでシャクガかなと思いつきながらネットインした。採集地の標高は約770mである。

末筆ながら、ご教示いただき、発表をお勧めいただいた兵庫県立人と自然の博物館の八木剛先生にお礼申し上げる。



兵庫県宍粟市赤西溪谷でフジキオビを採集

占部晋一郎・占部智史

フジキオビ *Schistomitra funeralis* (アゲハモドキガ科) は、黒の地色にクリーム色の大きな模様が特徴の翅をもつ美しい蛾である。本種は1属1種で、関東地方以西と四国に分布する。これまで、兵庫県では「氷ノ山」で採集

されたという古く曖昧な記録しかなかったので、ここに報告する。

1♀ 兵庫県宍粟市波賀町原赤西溪谷
(標高約550m) 27.V.2007.

カミキリムシの類を採集するため、白い花(種名不明)をスイーピングした後、車に帰る時にウスバシロチョウのようにひらひらと舞う鱗翅目の昆虫を発見した。採集してみるとそれが、本種フジキオビであることが判明した。

本種は兵庫県での公式な記録は「氷ノ山」のみとなっているが、実際は「ハチ北高原」で採集されている(本誌)。また「蘇武岳」でも目撃記録がある(高島昭氏のご教示による)など、実際は西播北部から但馬にかけての山地帯に少ないながら比較的広く分布していると思われる。

この短報を作成するにあたって、高島昭氏、八木剛氏にご協力いただいた。お礼申し上げます。

マダラキボシキリガ ハチ北高原で記録

吉田 武

2004年度兵庫県立人と自然博物館、八木セミナーのハチ北高原昆虫調査において、マダラキボシキリガ (*Dimorphicosmia variegata*) を採集しているので、そのデータをここに報告する。

マダラキボシキリガ 1♀

採集日: 25.IX.2004 at light

採集地: 兵庫県美方郡村岡町ハチ北高原大笹

小沼付近 (134.32.24E, 35.24.15N alt. 875m)

採集者: 吉田貴大 (採集者は筆者の中学2年の孫です。)

本種は冷温帯性の蛾で、北海道から中部以北の山地で時々見られるが、西南日本では、四国の剣山、九州山地で少数の記録があるだけで、高島昭氏はかねてきべりはむし30(2):43において、氷ノ山周辺、但馬の1,000m級の山地での生息の可能性を予測しておられた。今回その後の兵庫県内の記録についてのご教示、及び初記録ゆえの発表をお勧めいただいた同氏に深くお礼申し上げます。